

令和5年度 自己評価結果報告書

学校名	成田市立遠山小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ~ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く~
--

2 本年度の重点化された具体的な目標

<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成 ・豊かな心の育成 ・健やかな体の育成 ・キャリア教育の推進 ・グローバル化に対応した教育の推進 ・地域と共に歩む学校づくりの推進 ・安全安心な学校づくりの推進 ・特別支援教育の推進 ・教職員の働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けさせ、タブレット端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業を実践する。 ・遠山地区ブロック研修、校内研修、相互授業参観による研修の充実を図る。 ・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める「特別の教科 道徳」の学習を展開する。 ・いじめをはじめ、多様な課題に対応する相談支援機能の充実を図る。 ・集団活動を通して、「ありがとう」と言える子「ありがとう」と言われる態度を育成する。 ・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に努める。 ・全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。 ・成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。 ・学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。 ・地域人材の活用や校外学習の協力要請等、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりに努める。 ・学校林「駒の森」を活用した環境教育を充実する。 ・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。 ・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。 ・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。
---	---

3 自己評価結果 ※A(適切) B(ほぼ適切) C(やや不適切) D(不適切)

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保: 児童は学校が楽しいと感じているか。	保護者の90%から「適切である」との支持を得た。	A	児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得ている。これは、少人数学校ならではの学年を超えた人間関係作りの充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実が大きな要因であると考えられる。次年度は、これまで以上に児童が主役となって、学校行事等に参画していける体制を、教育活動全般にわたって計画していく。また、「駒の森を育む会」等の地域人材や保護者と連携し、児童にとってより充実した教育課程となるようにしたい。
	保: 児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	保護者の93%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 各教科の年間指導計画・週案などが適切に作成されているか。	「十分」と考えている教職員は14%であり、「概ね十分」は	B	
学習指導	保: 教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	学習指導については、概ね良好な回答を得ているが、進んで発表しているかという点では、80%を下回っている。教職員においても、自主的自発的な学習という点で、9割を超えていないことと関連している。タブレットを活用して友だちどうしの意見交換の充実を図ってきたところではあるが、これまで以上に、児童が自発的に思ったことや考えたことを声に出して授業に取り組める環境づくりを構築していく必要があると考える。授業研修を推進し、「主体的で対話的な深い学びの実現」を目指した授業を全学年で展開していけるよう努力していきたい。
	保: 学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 授業中、進んで発表しているか。	児童の75%から肯定的な回答を得た。	B	
	児: 担任の先生は、間違えたり分からなかったりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	児童の94%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
	職: 児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	「十分」と答えた教職員が少なく「概ね十分」が86%。	B	
生徒指導	保: 児童が困っていたり、悩んでいたるときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者、児童からは概ね良好な回答を得ている。生徒指導については、生徒指導部を中心に、教育相談員やスクールカウンセラーの配置、相談ポストの設置、年5回の学校生活アンケート、教育相談等を実施し、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできない児童も複数いるのが現状である。スクールカウンセラーとの教育相談など、悩んでいることを気軽に口にできる場を増やしていきたい。基本的な生活習慣については、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。
	児: 先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の89%から肯定的な回答を得た。	A	
	児: 先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	児童の100%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
	職: 児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
道徳 人権教育	保: 相手の立場を考え、協力する子に育っているか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	いじめ・不登校支援については、週1回開催している生徒指導委員会で組織的に迅速に対応している。また、特別支援委員会を設け、各学年で個別の支援が必要とする児童について、全体で共通理解を図っていった。異学年交流(たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など)を通じて、温かい人間関係づくりを継続して
	児: 困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	児童の94%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保健 安全管理	保: 運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の86%から「適切である」との支持を得た。昨年度より1割程度向上した。	B	保護者からは昨年度より評価が1割程度向上した。しかし、3割近くの児童が自分の体力作りの取り組みに否定的な意見を持っている。マラソン、なわとびなど、季節ごとの種目に熱心に参加しているが、運動面に関して自信をもつことができない児童も少なくない。登下校の多くが自家用車やバスを利用していることや、近所に友だちがいないことで下校後に外遊びをする機会が極端に少ないことが要因の一つであると考えられる。今年度は、校長が
	児: 進んで体力づくりに取り組んでいるか。	児童の74%から肯定的な回答を得た。	B	
	職: 体育指導、健康教育の充実に努めているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
保護者・地域との 関わり	保: 学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	保護者の96%から「適切である」との支持を得た。	A	今年度も、PTAによる遠山まつりやもちつき大会を盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校林「駒の森」を教材とした環境学習、ギター演奏家を呼んでの駒の森音楽集会を実施する等、充実した活動ができた。次年度も地域や家庭との連携を密にとり、児童の地域愛をさらに深めていく活動を行っていききたい。
	保: PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取り組みがみられるか。	保護者全員から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教職員の100%が「概ね十分」と考えている。	A	

4 自己評価の結果の分析

<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力の育成」では、授業中の発表に課題を残す結果となっている。タブレットの効果的な活用とともに、友だちどうしの対話的な学習を推進していくことが必要であると感じている。 ・「豊かな心の育成」では、学校林「駒の森」を活用した全校駒の森整備作業や5年生の駒の森学習会等、教育活動への効果があったと考える。今後も、遠山小ならではの取り組みをさらに充実させていきたい。 ・「健やかな体の育成」では、体力の向上を目指して取り組んできていて、保護者や児童の意識も少しずつ向上してきている。体育科学習の充実とともに、児童が進んで体を動かしていける環境作りを図っていききたい。 ・保護者や地域とのつながりでは、駒の森整備作業やリサイクル活動、遠山まつりなどのPTA行事などを通して、連携が深まったと考える。今後も、連絡等を密にとりながら、信頼関係を築いていきたい。
--